

居住性能評価指針検討WG 議事メモ（案）

A. 日 時 2010年5月17日 月曜日 18:00～19:35

B. 場 所 建築学会会議室

C. 出席者 横山主査, 以下7名

D. 提出資料（提出委員名）

No.1-0 居住性能評価指針検討WG 議事録案

No.1-1 居住性能評価指針検討WG 議事メモ

No.1-2 床, 路面, スポーツサーフェスのすべり試験など

E. 議事内容

O. 前回議事録確認

- ・議事録案（資料 No.1-0）が承認された
- ・資料 No.1-1 も合わせ, 前回の議事内容を確認した

1. 資料説明（横山）

- ・横山主査より, 材料施工委員会 内外装工事運営委員会 床工事WG でまとめられた「床の性能評価方法の概要と性能の推奨値（案）」（2008年）の抜粋が紹介された
 - －指針に対する考え方・イメージの一例
 - －床のすべり, 床振動, それぞれの性能評価の例
 - －評価に対する学術的根拠の提示, および推奨値の提示, の二本立て
 - 学術的根拠: 性能評価・判断は使用者に任せるもの
 - 推奨値: 学術的根拠, 使用者の意見など, 総合的に検討し設定

2. 指針検討に関する議論

- ・評価指針か設計指針か
 - －評価は使用者に任せるか, 推奨値を提示するかは, 指針の位置づけに依存
 - －現時点では評価指針, 設計指針の両方を検討すべき
 - まずは設計指針の根拠ともなる評価指針から検討してみる
 - 評価は設計も意識しながら検討することも必要
 - 評価には最新成果（コンセンサス）を取り込む（評価小委員会で検討予定）
 - －使用者への意見聴取（アンケート等）は必要ないか
 - 意見は立場による（設計者なら設計指針を求める）
 - 現時点で意見聴取を行ってもこれまでのWG内の意見に集約される可能性が高いので, 現段階では実施せず, 今後改訂作業の進展状況に応じて必要と思われる段階で実施する
 - 2004年改訂の前に実施したアンケート結果を確認することとした
 - －各指針に対する論理づけが重要
 - ・環境振動評価および振動感覚評価の現状整理
 - －ISOなど国際的な現状について
 - 騒音制御工学会で実施中の環境振動評価に関する国際調査の情報も入手する
 - 日本の評価指針を海外に広めたり（1991年版はIABSEに発表している）, 国際的な方法を取り込むことの実務的な観点からの意義は, 以前と比較して高くなってきている

- －「現状と規準」の内容確認を行い、それを踏まえ、それ以降の状況等を整理することとした
- ・他の居住性能評価との比較
 - －個別設計と選定など、性能を達成するためのプロセスが異なるため、他の性能との横並びは難しい
- ・クレーム事例、裁判事例などの情報収集
 - －可能な限り収集し、現状把握に努める必要がある
 - －戸建て住宅に対しては、戸建てWGで収集中

3. 次回開催予定

- ・次回委員会は、2010年7月12日（月）は18時00分から本会会議室で開催予定
- ・前回改訂時に実施したアンケート（追ってメール配信）、および「現状と規準」の内容を確認し、疑問点、議論すべき点などを個々の委員が準備する